専大スポーツ
No.376
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/)でも大会結果を配信しています

2年連続準優勝

男子 昨年のリベンジならず

全日本大学総合卓球選手権（団体の部）＝7月6～9日、北海道札幌市・北海きたえーる

専大は男子が昨年に続き準優勝となった。

関東大学春季リーグ戦を制した男子は、今大会でも快進撃を続けた。予選から準々決勝までの5試合は、すべて3―0のストレート勝利。田添健汰（商4・希望が丘高）・郡山北斗（経営3・関西高）のダブルスペアを中心に順調にトーナメントを勝ち上がった。準決勝で愛知工大を3―1で降し、決勝戦はくしくも昨年同様、明大との対戦となった。

リーグ戦では勝利した専大だが、今回は苦戦を強いられた。1番手・田添響（商3・希望が丘高）が敗れると、続く2番手・田添健汰も激しいラリーの末、敗北。優勝に向け後がない崖っぷちで田添健汰・郡山ペアが望みをつなぐ。抜群の安定感でポイントを奪い、初めて専大が勝利した。逆転優勝を目指したが次のシングルスで敗れ、昨年のリベンジはかなわなかった。

ベンチから声援を送り続けた下山優樹主将（人間科学4・青森山田高）は「この大会で優勝するために練習も頑張ってきたので悔いは残る。自分たちの実力は出せたと思うが、向こうがそれを上回っていた。秋は明大に絶対勝ちたい」と秋季リーグ戦での巻き返しを誓った。

女子は予選を全勝で突破するも、2回戦で神戸松蔭女学大に敗れた。

（飛田翼・文3＝写真も）

決勝戦で専大に1勝目をもたらし、握手を交わす田添健汰（右）と郡山

田添響が優勝　男子単

安藤・枝松ペア準V　女子複

関東学生卓球選手権＝6月28～30日、葛飾区水元総合スポーツセンター

男子シングルスで田添響が初優勝を果たした。

筑波大の三浦健太郎選手との決勝戦。田添は「3セット目から自分のプレーができるようになった」と落ち着いて4セットを連取し4―2で勝利。優勝を決めるとウイニングボールを観客席のほうに打ち上げ、天に向けて拳を突き上げた。

「大学に入ってから結果が出なかったのでこの優勝はうれしい」と自らの成長に手応えを感じた様子だった。

女子ダブルスでは、春季リーグ戦でも活躍した安藤みなみ（商3・慶誠高）・枝松亜実（人間科学1・山陽女子高）ペアが決勝に進出した。決勝の相手は中央大の伊藤・瀬山ペア。2セットを先取したが、追いつかれて最終セットにもつれ込む接戦となったが、最終セットを9―11で落とし、惜しくも準優勝となった。

力強いフォアハンドでポイントを狙う田添響
＝撮影・飛田

加藤・森ペアが準優勝

表彰状を手に笑顔の森（左）と加藤

関東学生バドミントン選手権＝6月6～24日、葛飾区総合スポーツセンターほか

Aブロック女子ダブルスで加藤智香（人間科学4・埼玉栄高）・森瑞希（文4・埼玉栄高）ペアが準優勝となった。

高校時代からペアを組んでいるだけあって、息の合ったプレーを披露。フルゲームにもつれ込んだ準決勝も制し、決勝に駒を進めた。決勝はストレートで敗れたが、加藤は「教育実習があり、十分な練習ができなかった状況の中で、目標にしていたベスト4以上の結果を残せた」と振り返った。森は「決勝では相手のスピードについていけなかった。スピードをつけることが今後の課題」とし、「東日本学生、全日本学生で今まで以上に良い成績を残せるように頑張りたい」と意気込んだ。

同じAブロック女子ダブルスの桶田彩乃（商3・西武台千葉高）・谷澤安衣（商2・日本橋女学館高）ペアはベスト4入り。両ペアは10月の全日本学生選手権の出場権を獲得した。

また、Bブロック男子シングルスでは、板東拓哉（商1・淑徳巣鴨高）がベスト4となった。

（福井彩乃・文3＝写真も）

中国オープンでU21及川が準V

卓球のITTFワールドツアープラチナ・中国オープン（6月22～25日、成都市）に男子の田添健汰、及川瑞基（商2・青森山田高）、三部航平（商2・青森山田高）、女子の安藤みなみの4選手が出場した。

男子U21シングルスで及川が決勝に進出。愛工大明電高校の木造勇人選手と対戦した決勝戦は、フルセットまでもつれ込む接戦となったが、最終セットを9―11で落とし、惜しくも準優勝となった。

（冨樫幸恵・文3）

男子F86kg級　松雪

3位入賞

女子48kg級　中村

明治杯全日本選抜レスリング選手権＝6月16～18日、渋谷区・代々木第二体育館

世界選手権（8月、仏パリ）の代表選考会を兼ね注目が集まるなか、男子フリースタイル86kg級に出場した松雪泰成（商2・星城高）、女子48kg級に出場した中村未優（商1・埼玉栄高）が3位に入賞。専大勢は他の階級でもベスト8に4選手が入るなど健闘した。

松雪は、昨年12月の天皇杯全日本選手権の3位を上回る結果を目標に大会に臨んだ。しかし「対策を練ってきたものを出す前に終わってしまった」と振り返る準決勝で思いどおりの試合運びができず、決勝進出はならなかった。「今後は世界ジュニアでメダル獲得、全日本大学選手権で優勝を目指す」と8月に行われる2大会を見据えた。

中村の初戦は4月のジュニアクイーンズ大会で負けた相手。「研究と対策を重ねた」という通り、序盤からリードを奪い、勝利した。優勝を狙っていただけに準決勝敗退に悔しさを見せたが、「課題を見つけてステップアップしていきたい」と前を向いた。

卒業生の活躍も目覚ましく、中村倫也さん（平29商、博報堂DYスポーツ）が男子フリー61kg級で優勝。河名真寿斗さん（平29文、クリナップ）が男子グレコローマンスタイル59kg級で3位に入った。中村さんは世界選手権に日本代表として出場する。

（冨樫＝写真も）

鋭いタックルを決める中村

フリー61kg級 佐々木が優勝

東日本学生レスリング春季新人選手権＝6月21、22日、世田谷区・駒沢体育館

フリー61kg級で佐々木虎次郎（商1・中津商高）が優勝した。

「自分の動きができていた」というように、決勝までの4試合は全て10点差以上のテクニカルフォール勝ち。決勝も相手の攻撃を寄せ付けず14―5の大差で勝利した。今後の目標を「8月の全日本学生選手権でも優勝を目指す」と語った。

前田明都（経営1・花咲徳栄高）がフリー74kg級とグレコ75kg級の2種目で2位。グレコ59kg級の藤波諒太郎（文2・金沢北陵高）と同130kg級の庄司樹（経済1・岐阜工高）も2位となるなど、新たな力が出てきたレスリング部の今後に期待だ。

（谷田祐樹・法3）

全日本学生出場切符つかむ

チーム力で種目総合4位

関東学生馬術競技大会＝6月24日～7月2日、神奈川県伊勢原市・津久井馬術競技場ほか

10月末から行われる全日本学生馬術大会の出場権をかけた今大会、専大は総合馬術競技では団体3位に入った。障害飛越競技、馬場馬術競技はそれぞれ団体6位、5位と悔しい結果になったが、3種目総合で4位となり、全日本学生馬術大会への切符をつかんだ。

山本開智主将（経営4・つくば開成高）は「馬が全体的に疲れているところもあって人馬の調整がうまくいかなかったが、総合馬術では全員の強い気持ちが馬にも伝わって3位に入ることができた」と振り返った。

また山本主将は、人馬調整などの課題が見えたことを踏まえ、「全日本学生に向けてチーム全員の気持ちを高めて、全力で臨めるようにしていきたい」と力強く語った。

（大河原佳也・文3）

山本主将の見事な騎乗